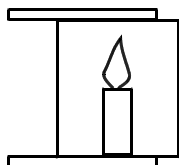
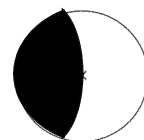


解 答

- ① (1) ウ (2) 受粉 (3) 風 (4) ウ
 (5) ① イ, ウ, エ ② ウ・胚が育つための養分
 (6) だ液はデンプンを分解する働きがある。
- ② (1) 3・55 (2) イ (3) ウ (4) ウ (5) ア, イ
- ③ (1) 縮むとともにもどろうとする性質。
 (2) ① ウ ② おし縮めても、体積がほとんど変わらない性質。
 (3) ペットボトル内の気圧が高くなり、空気が水を下向きにおして水が出てくる。
 (4) ア
- ④ (1) ① つつの上と下にすき間をあける。 ② 空気が下から上へ流れるようになるから。



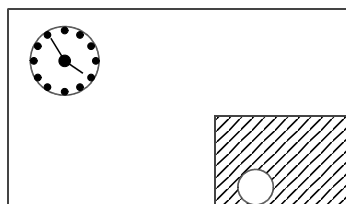
- (2) ① 火のついた線香を近づけ、けむりの動きを見る。 ② P エ Q カ
 (3) オ, キ
- ⑤ (1) 塩化ナトリウム (2) 26 (3) 0.1 (4) 青
 (5) $B \cdot 2.5$
 式 $5.4 \times \frac{10}{4} = 13.5 \text{ (cm}^3\text{)}$ $13.5 - 11 = 2.5 \text{ (cm}^3\text{)}$
- ⑥ (1) 右図
 (2) ウ
 (3) エ・10月8日の月食のときの月は満月で、その一週間後の月だから。
 (4) 太陽と同じ方向にあるので、すべて暗い部分である。 (5) ア



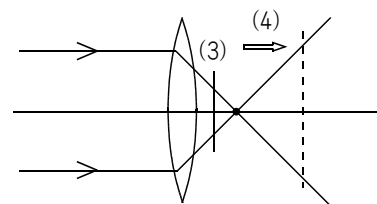
解 説

- ① (6) ヨウ素液はデンプンに反応することから、Aの試験管ではデンプンがなくなり、Bでは残っていることがわかります。これより、だ液にはデンプンを分解して別の物質にするはたらきがあることがわかります。

- ② (1)・(2) 鏡を背にして部屋の様子を見ると、(図①)のようになります。
 (3)・(4) 虫めがね(凸レンズ)は(図②)のように光を一点に集めます。紙にできた明るい部分の面積がせまくなるほど、同じ面積あたりに集まる光の量が多くなるので、明るく、温度も高くなります。紙を遠ざけていくと、明るい部分はせまくなっていったあと、また広がっていきます。最もせまくなった点が焦点です。



(図①)



(図②)

- ⑤ (2) A液 4 cm^3 に溶けた塩化水素と過不足なく反応するB液は 10 cm^3 で、これはA液を水でうすめても変わりません。よって、よう液は 26 cm^3 ($4 + 12 + 10$) です。
 (3) A液 6 cm^3 と過不足なく反応するB液の体積は 15 cm^3 ($10 \times \frac{6}{4}$) で、このときの反応によって、塩化ナトリウムが 0.45 g ($0.3 \times \frac{6}{4}$) できます。よって、水酸化ナトリウムはB液 5 cm^3 に 0.10 g ($0.55 - 0.45$) 溶けていたとわかります。
 (4) A液 8 cm^3 と過不足なく反応するB液の体積は 20 cm^3 ($10 \times \frac{8}{4}$) なので、B液があまり、BとBよう液は青色(アルカリ性)となります。
 (5) A液 5.4 cm^3 と過不足なく反応するB液の体積は 13.5 cm^3 ($10 \times \frac{5.4}{4}$) のため、B液をあと 2.5 cm^3 ($13.5 - 11$) 加える必要があります。